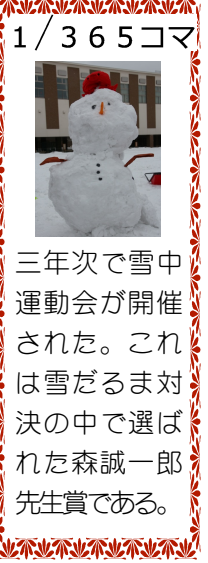


社会人と交流し自身を見つめる



開成中等新聞局
発行責任者 宮崎
制作者
阿部・小笠原



三年次で雪中運動会が開催された。これは雪だるま対決の中で選ばれた森誠一郎先生賞である。

2月15日土曜日に本校の数学1教室にて、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本主催のJA Future Skills with AIGが開催された。本校の2、3、6年生の計11名が参加し、参加生徒は、自身の長所や短所などについて考え、それを踏まえた上で模擬面接を行うといった内容であった。参加者は、「自分の良さを知ることができた」と喜びの声を上げていた。

このプログラムは、様々な学校や企業で実施されており、企業の賛同のもと社員ボランティアが中高生のキャリア設計をサポートするプログラムとして提供されている。北海道においては、AIGジャパ



参加した生徒とAIG社員の方々

ン・ホールディングス株式会社協力し実施されている。主催者のJA Japanのプログラムマネージャー川島加奈恵さんは、このプログラムを実施することの成果について「生徒達の強みやアピールポイントとは第三者の社会人と対話する中で気づくことがあります。このプログラムを通して、生徒達が自身の素晴らしさに気づき、自信を持つことができたり、自分自身のこれからのついて前向きな気持ちが生まれたりすることで、不安が軽減されることが成果だと言えます」と語った。

このプログラムについて井上先生は「時期が2月だったのもあり、参加者が少なかったですが、模擬面接など受験生にも参加してもらいたい内容が含まれています。そのため次年度もまた開催すること



▲模擬面接で用いたシート

ついで「今よりもっと多くの地域に広めていきたいです。どうしても首都圏に比べて地方の学校ではこういった機会が少ないです。そういった実態があるため、特に地方にリーチしようという思いをもって、日本全国で実施していきたいです」と願望を述べた。

参加者の声

このイベントに参加した6年生の菅原大地さんに経緯を尋ねると「学年が上がるにつれ、面接や就職活動などが現実味を増し、自分の強みを自覚し、言語化することが必要と感じました。その中で今回のプログラムはうってつけだったので参加しました」と述べた。



ボランティアの方と振り返る大地さん(右)

参加して良かったことは「自分の短所だと思っていたところが、意外と実社会では重大なものにならないと社員ボランティアの方から助言をしていただけました。また、自分では気づかなかった長所についてもプログラムに参加する中で気づくことができました」と話した。

今回の経験の生かし方については「面接や就職、日々の生活にも直結することに触れたので、特定の場面で使うという意識よりも、日常的に頭の片隅に置いておこうと思います」と語った。

今年度より新設されたユニット紹介の第3弾は山学班だ。鳥や虫が好きな人、ウイנטークスポーツが好きな人など自然に関する様々な興味を持った24人の班員が集まり、宮田校長先生、中西先生、佐々木吉幸先生を顧問として活動を行っている。メンバーが問題をもちあつたクイズ大会や、各々が興味のある分野でのグループディスカッションなどの活動を通してそれぞれが持っている山や自然に関する知識の交流をしている。副班長の4年栗林輝さんは今後の展望として「メンバーと協力して、北海道の特色を生かした活動を考えていきたい。来年度も活動を行う予定なので興味がある方はぜひ入班してほしい」と語った。



▲中庭で見られるハクセキレイの巣と幼鳥